



## 交通バリアフリーニュース

### 第9回 国土交通省 バリアフリー化推進功労者大臣表彰

国土交通省では、平成18年12月施行の「バリアフリー法」(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリー化に関する意識啓発にもより一層努めることとしております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取り組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に「国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度」を創設し、この度、第9回目となる表彰が行われました。

受賞の概要は次のとおりです。

#### 【選考委員からの講評】

全19件の候補の中から、3件の受賞者を決定。

事業の新規・先進性、波及・影響度、高齢者・障がい者等の方々への参加が確実に図られていること、地道な取り組みであっても根気強く継続的に行っていること、また、意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどを考慮して評価。

#### 【受賞者】

##### 1) 島 信一郎・北海道ユニバーサル上映映画祭実行委員会

「誰もが楽しめる映画祭を通じたユニバーサルデザインのまちづくり」

##### 2) 鳥取県

「JR西日本 とともに取り組む手話を通じた心のバリアフリーの推進」

##### 3) 香川県難聴児(者)親の会

「障害当事者団体・行政・民間事業者の協働事業による公共施設・路線バス等への磁気ループの設置」

#### 【講評】

受賞者は、予算の少ない中、行政、民間事業者と協働で、高松市内の公共施設や、四国で初めてバスに磁気ループを設置するなど、先進的な取り組みを行った。また講演などで全国へ磁気ループ拡大の発信を行うなど、聴覚障がい者の情報バリアフリー化に対する多大な貢献及び全国の模範となる活動を行っていることを高く評価し、表彰することとした。

#### 【受賞者の取り組み】

##### ■ 取り組みの概要

香川県難聴児(者)親の会は、高松市及びバス事業者と協働し、市内を走るバスや、高松市役所をはじめとした公共施設に磁気ループ(※)を設置したほか、磁気ループ設置施設の案内マップを作成し配布を行っている。また、各地の講演において取組事例の紹介や磁気ループの設置されたバスへの乗車体験を行っている。さらに、難聴の子供達やその保護者の方々への情報交換や交流の場の提供、軽度から中程度の聴

覚障がいを持つ子供達への補聴器の購入助成について行政への要望といった活動も行っている。

(※) 磁気ループ：音声信号を電気信号に変え、ループアンテナ誘導磁界を発生させる磁気誘導無線システムのこと。補聴器などを付けた難聴者が騒音の大きな車内でも音声案内や運転手の声が聞き取りやすくなる。最近の劇場や会議室等にも設置されはじめている。

● 路線バスへの磁気ループの設置

高松市の協働企画提案事業に採用され、高松市、民間事業者と協力して、市内を走るバス6台に持ち運びが可能な磁気ループを設置している。磁気ループが設置されているバスには、聴覚障がい者の方が当該バスを利用しやすいように「耳マーク」「磁気ループ設置マーク」を車両の入り口に貼っている。なお、1つの磁気ループで3名ほどのカバーが可能となっている。



バスに設置されている磁気ループ



磁気ループの案内



バスの窓に貼られている磁気ループ設置マーク(左)と耳マーク(右)

● 磁気ループ設置マップの作成・配布

高松市と連携して、磁気ループが設置されている箇所を示した高松市の地図、バスの路線図、時刻表を作成している。地図には市役所をはじめ、市内の9カ所の施設が記載されており、各施設において無料配布を行っている。またバスの路線図、時刻表を掲載することで、磁気ループが設置されているバスの利用促進、磁気ループに対する理解の拡大を図っている。



高松市役所に設置されている磁気ループ



磁気ループ設置場所施設のマップ

【今後期待される取組み】

今後は、より多くのバス路線や公共施設にとどまらない大規模民間施設、観光施設等への磁気ループの設置拡大、全国の聴覚障がい者の団体との協力による全国への同様の取組みの拡大が期待される。

## 第9回 バリアフリー推進四国地域連絡会議を開催

～香川県高松市～

日時：平成28年3月7日（月）13：30～15：30

場所：高松サポート合同庁舎 低層棟2階 アイホール

出席者：徳島大学大学院 近藤光男教授、

近畿大学理工学部社会環境工学科 柳原崇男講師、

公益財団法人香川県視覚障害者福祉協会、

公益財団法人香川県身体障害者団体連合会、社会福祉法人香川県手をつなぐ育成会、

公益財団法人香川県老人クラブ連合会、四国ろうあ連盟、

全国脊髄損傷者連合会 香川県支部、一般社団法人日本発達障害ネットワーク、

四国旅客鉄道株式会社、四国鉄道協会、四国バス協会、

四国各県バリアフリー担当者、高松市バリアフリー担当者、大阪航空局高松空港事務所

四国運輸局と四国地方整備局は、高松サポート合同庁舎において、「第9回バリアフリー推進四国地域連絡会議」を開催しました。

この会議は、関係する施設設置管理者、当事者団体、有識者、行政等が一堂に会し、バリアフリー法に基づく取り組みの現状把握、課題の抽出、先進事例の紹介、対応方策の検討や提案など、バリアフリー化の推進に向け知見の共有を図るとともに、互いにより良い協力関係を築き、連携してバリアフリー化の一層の進展に寄与することを目的に開催しています。

会議には30名が出席し、徳島大学大学院の近藤光男教授を座長に、委員の近畿大学理工学部の柳原崇男講師による「移動環境と健康」についての講演、新居浜市による「新居浜駅周辺整備事業（バリアフリー化）の取組事例の報告、全国バリアフリーネットワーク会議報告、行政の取り組み報告、四国運輸局優良事業者等表彰、意見交換などが行われました。



意見交換では、事前にお聞きした意見・要望に対する改善状況等を報告した後、

「車椅子利用者が4名、5名で鉄道やバスを利用する際は幅広い対応を求める」「障がい者用駐車場については高齢者を含む一般の利用者に対して、表示の意味も含め適正な利用を周知する必要があること」

「外見から障がいかわからない人が携帯する『ヘルプマーク』の周知」「新型特急



NPO 法人福祉住環境ネットワークこうち 笹岡理事長への表彰状授与

車両のバリアフリー化の情報提供」「切符購入時における障がい者割引の自動券売機の表記について」「鉄道・バス利用時の聴覚障がい者への情報格差の対応や環境整備」などの意見・要望等が出されました。

会議での意見・要望等は、今後のバリアフリー施策に反映していくとともに、ハードとソフトの両面からのサポートが大事だということを再認識しつつ、さらに連携してバリアフリー化の推進を図っていくことが確認されました。

会議の冒頭では、高知市内においてタウンモビリティ（※）の活動に取り組み、高知市中央商店街に「タウンモビリティステーション ふくねこ」を開設し、高齢者・障がい者等誰もが安心して移動できるための環境整備に尽力され、バリアフリー施策への多大な貢献が認められた NPO 法人福祉住環境ネットワークこうち様に対し、四国運輸局長から優良事業者等表彰状の授与が行われました。



ステーション外観

(※)タウンモビリティとは、タウン=まち、モビリティ=移動性であり、障がいを持って高齢者になっても、誰もが出かけたいと望む場所に出かけられる、移動の権利を保障する仕組み

誰でも気軽に商店街へ

タウンモビリティとは  
障がいのある方、高齢の方など移動に不便を感じている方で「まちで買い物したいけれど高い値段を移動するのはしんどい」「人混みを一人で歩くのは怖そうだから」「身体障害者用トイレが少なくても配慮という点に、車椅子やシルバーカー(学童用車)、また小さいお子さん連れの方にはベビーカーの貸出しを行います。また、長い距離を一人で歩いたり、車椅子をこいで移動する方が大変な方は、まちなかの移動や買い物にボランティアがさまざまなサポートも行なっています。

毎月第2土曜日は、**タウンモビリティの日**

～商店街を安心して利用するために、車椅子の貸出しや移動のサポートが行なわれています～

- 日時: 2013年1月から毎月 第2土曜日 11:00～17:00 (4月13日・5月11日・6月8日・・・7月以降も開催)
- 場所: 土佐セレクトショップてんこず エントランス (高知市常屋町1-11-40 新京橋プラザ)
- 利用料: 車椅子、シルバーカー、ベビーカーの貸出(無料) ボランティアの付き添い(1回500円)

○事前予約・お問合せ先: ☎080-3923-2939(担当 笹岡)

HOMERUN ホームラングループは  
タウンモビリティに協力しています。

## バリアフリー教室を開催

### 高松空港

平成28年2月17日(水)、四国運輸局及び高松空港事務所は、全国脊髄損傷者連合会 香川県支部の協力を得て、高松空港(香川県高松市)において「バリアフリー教室」を開催しました。教室には、高松空港ユニバーサルデザイン推進部会構成員や空港関係従業員ら19名が参加。

全国脊髄損傷者連合会 香川県支部の車いす利用者講師等3名の講師による指導のもと、空港施設内で車いす利用者の疑似体験を実施しました。教室では、施設における段差や移動時の困難なところを実感し、その後の講話・意見交換において、介助するときには本人が何をどうしたいかを聞き対応すること、旅行を楽しめるよう手を差しのべる等、体験を踏まえて今後の接遇や介助の大切さを改めて認識していただきました。

参加者は、今回のバリアフリー教室で、さらなる「心のバリアフリー」の推進と、安全で快適な公共交通機関のサービス向上に誓いを新たにしました。



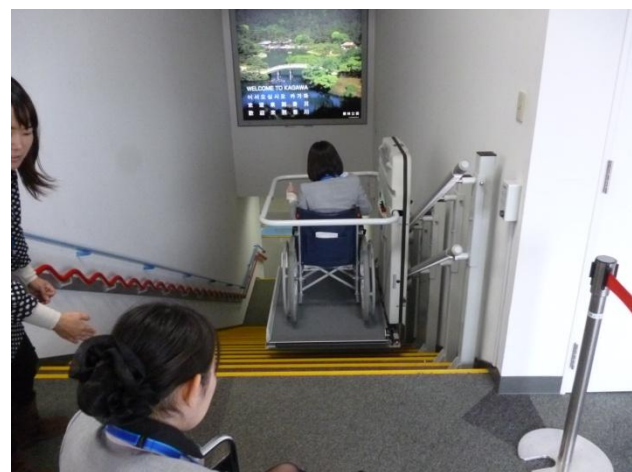
講師による講話



疑似体験(エレベーター乗降)



疑似体験(多目的トイレ利用時)



疑似体験(リフトでの昇降)

四国運輸局が開催しておりますバリアフリー教室は、自治体、社会福祉協議会、障がい者の方、公共交通事業者等から、後援・協力をいただき開催しております。

1～3月に開催した教室は次のとおりです。

#### バリアフリー教室

（平成28年2月17日開催・高松空港）

協 力：全国脊髄損傷者連合会 香川県支部

ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政・情報課まで、FAXまたはメールでお寄せください。



〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: [skt-Shikoku-shohisha@ml.mlit.go.jp](mailto:skt-Shikoku-shohisha@ml.mlit.go.jp)



国土交通省

四国運輸局ホームページも是非ご覧ください

<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/>

このニュースは、交通バリアフリー関係の話題を中心に、4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。

このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。